



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.13
2012.2

「人生を楽しむ」

「できることから生き生きと!!」

今回のりぼんでは、正田地区で男性料理教室などさまざまな活動を通して会員相互の交流をされている「正田がんこじいさんの会」の杉本智人さん、田口和男さん、西尾宗明さん、福田博美さんの4名と、子どものお弁当を作るなど、積極的に子育てを行っている男性（イクメン）として、哲多町矢戸の羽場昭正さんにインタビューを行いました。



羽場昭正さん



正田がんこじいさんの会のみなさん

正田がんこじいさんの
の会へのインタビュー

正田がんこじいさんの会とは…

「第二の人生を地域の仲間と生き生きと楽しく過ごそう」と、平成18年に正田地区の55歳以上の男性が集まってつくられたサークルです。会員の希望により、料理・スポーツ・園芸・旅行など、さまざまな活動をされています。

Q 料理教室を始めたキッカケや、やってみて感じたことは？

自分が自立してやらないといけない

田口さん・西尾さん・福田さん

会の活動は料理ばかりじゃなく、いろいろな企画を楽しんでいるのですが、元々杉本さんがそば、うどんが上手なので、そこから料理に挑戦しようという話が出ました。

そして、いつからか、毎回行事の時には料理を作るようになりました。魚をさばく、うどん・そばを打つなど、メンバーそれぞれの得意分



野があるので、分担して料理に取り組んでいます。

一人暮らしでも不自由しなくてすみそうな時代ですが、それでも自分のことは自分でできるようなにしたいと思っています。



田口和男さん

田口さん

高齢化社会になって、もし女房が先に逝ってしまったら、自分が自立して料理などもやらないといけないと思っています。男性でも、やればできると思います。

杉本さん

若い頃からそば打ちが得意で、そば打ち以外の料理も何でもやりま

西尾さん・福田さん

仲間と楽しく、生き生きと過ごすため、この会で活動しています。

妻の苦勞がわかった

田口さん

料理の後片付けが大変だと感じました…。

杉本さん

料理は若い頃からしているし、料理を作りながら片付けも同時にするので、片付けも大変とは感じていないです。

福田さん

妻は手間がかかることをしていったんだなあと知りました。

西尾さん

自分で料理を作ることの必要性は、独居になるなど、その立場にならないとわかりませんが、簡単なものから始めれば良いと思います。



杉本智人さん

家庭でも料理をしていますか？

女性より上手い料理も

福田さん

料理教室で習った料理などはそのときだけで、家庭では作っていません。

杉本さん

酒のつまみは自分で作ります。それに、うどん、そば作りは女性より上手いと思っています。

田口さん

山芋のお好み焼きが得意で、孫にも大好評です。

現役時代の家事については？

自分は仕事で精一杯だった

西尾さん

自営業で精いっぱいでしたが、料理は妻が作ってくれていました。

福田さん

サラリーマンで、共働きでしたが、

母親が元気でいたので、料理は母親がしていました。

杉本さん

母親と妻がしてくれました。自分は仕事で精一杯でした。

田口さん

共働きでしたが、勤務時間が不規則で料理はしていなかったです。

家庭や職場での男女共同参画について

私たちは古い世代だから料理・洗濯は主婦の仕事だと思っていた

福田さん

男女共同参画の主体は何なのでしようか？ことさらに協力とか言わなくても、お互いにカバーしなくていけない場合もあるし、やる人はやっていると思います。

でも、私たちは古い世代だから料理・洗濯は主婦の仕事だと思っていましたし、今もそうだと思っています。



世の中が便利になっている けど……

杉本さん・田口さん・西尾さん・福田さん

現代は昔（自分達が若い頃）と比べて便利な世の中になっています。

ご飯を炊くのに、竈に薪をくべて釜で炊くことなく、炊飯器でスイッチを押すだけで炊き上がる。

洗濯は、洗濯板に衣類をあてて手でゴシゴシ洗わなくても、洗濯機のスイッチ一つで洗濯から脱水までできる。

食べ物も、少し歩けば何でも揃う店舗があり、時間に制約されずに手に入れることができる。

昔はどこへ行くにも自分の足で歩き、交通機関は列車を利用するくらいでしたが、今や誰でも自家用車を所有し、自分で運転してどこへでも出かける。



福田博美さん



西尾宗明さん

また、昔の女性の家事と比べると家事全般が非常に簡単に便利になっていると思います。

お金はかかりますが、便利な世の中になり、昔に比べると時間の余裕もあると思います。

田口さん

JRで運転士をやっていました。昔は石炭を使っていたし男しかできない仕事でした。

今は（石炭も使わなくなり、力仕事が減ったので）女性運転士もいますが、（出産・子育てなどで）女性は継続して仕事ができない面があるのも事実です。

また、産休や育休を男性が取得するのは、大きな会社なら別でも、小さな会社だと他の人に迷惑がかかってしまうので、実際には難しいと思います。

最後までひんじょうをお願いします

60歳からが自分の人生

西尾さん

多くの人と付き合うこと。一人にならないようにすることが元気の秘訣だと思います。

福田さん

若い人（60歳代）がどんどん（「がんこじいさんの会」のような活動に）入ってきてくれればいいですね。

杉本さん

仲間を増やして楽しくやりましょう。

田口さん

60歳からが自分の人生。楽しい雰囲気のある会に参加して愉快に過ごしましょう。60歳を過ぎればそこで止まってしまおう人とは10年、20年すれば相当差がつくと思います。楽しい雰囲気大切、笑うことが大切です。一緒に活動できる仲間がいるから続けられます。



がんこじいさんの会の料理の様子



イクメンへのインタビュー

イクメンとは・・・

子育てを楽しむ男性や子育てを積極的に行う男性のことです。

今回、インタビューを受けていただいた羽場さんは、お弁当作りだけではなく、日常の家事でも自らが手本を示し、また、神楽など地域の行事や農作業にも子どもと一緒に取り組んで子育てをされています。

Q どのように子育てを行っていますか？

父親が自分をそういう風に育ててくれた

子どもが生まれたときから、おしめ・食事など、一般的に母親(妻)がすることを同じようにしてききました。現在も同じです。

父親が自分をそういう風に育ててくれたので、自然と同じようにしています。

また、自分のことは自分でできるようになってほしいので、お弁当作りや料理も子どもと一緒に作っています。



羽場昭正さん

Q お弁当づくりを始めたきっかけは？

子どもたちに必要とされるから

子どもたちがお弁当を必要とするからです。

子どもたちが、お父さんに作って欲しいと言えば、作るようにしています。

Q お弁当づくりをやっている感じは？

作ったものを全部食べてくれると何より嬉しい

お弁当を作るときは、子どもが苦手な食材は、食べやすいように細かく切って他のおかずに分れさせたりしています。

作ったものを全部食べてくれると何より嬉しいですね。

また、保育園で、お父さんの手作り弁当はなかなか評判がいいようです。

Q 子育てで気を付けていることは？

何事にも感謝の気持ちを忘れない

子どもに何かをさせるときは、まず自分がやってみせるようにしています。口先だけではなく行動に表すことが大切だと思います。

そして、子どもたちには、「何事にも感謝の気持ちを忘れない」ということが、一番大切だと教えています。

その他にも、家族、地域の人たちにきちんとあいさつをすることや、子どもがきちんと出来たら褒めてやることを心がけて子育てをしています。褒めることは子どもの神樂を通して学びました。

勉強以外でも頑張る姿を褒めてやりたいと思っています。

何事にも常に感謝の気持ちを忘れず、農作業や家事、イベントへも



可能な限り子どもと一緒に参加して、家族・地域の力を得て、助け合いながら子育てをしていきます。

編集後記

「がんばりさんの会」のみなさんは、自分ができることを提供し合い、お互いを尊重しながら、助け合って会を運営していることがまぶしく感じられました。

これまでの人生経験の中で、世代的に男女の役割に対する固定観念はありますが、これからの人生を自立して周りと楽しく和氣藹々(わきあたたか)と過ごそうという感じを受けました。

また、料理教室にも自然体で参加され、多くの人と関わり、会話や作業を通じて多くの仲間をつくり、一人ひとりが生き生きと自分にあったやり方で楽しんでおられました。

「60歳から人生が始まる」、うーん良い言葉です。

「イクメン」へのインタビューでは、自然に子育てをする羽場さんが輝いて見えました。また、団塊の世代でありながら、子育て・家事全般に当然のように関わってきた羽場さんのお父様にも心からエールを贈りたいと思いました。

りぼん第12号(市報第77号へ掲載)で、男女共同参画のキーワードとして「自立」・「思いやり」・「感謝」を挙げましたが、羽場さんは見事にクリア。家族の絆を大切に育んでいくためには、「自立」・「思いやり」・「感謝」が必要だと再認識しました。

イクメンの羽場さんは心身ともにイクメンでした。

新編集委員紹介

委員長：小川政保 副委員長：川上幸江
編集委員：川本太問、清水里香、双道昌子、谷岡奈央、前田実、山本静香、上田津美、岡本博巳

